

『朝 (03/06)』

庭に陽が差込んでいる  
日曜日と言う一日は  
物静かな幕開からはじまる

車の音も人の息ずかいもなく  
木漏れ日洩れる庭の佇まいを  
お茶を飲みながら眺めていられる

束の間の愛からも開放され  
与えてくれた休息に  
私は今感謝している

庭の佇まいを乱す行為と言えば、まだ冬の風が  
木立を嘗め回して去って行くだけかである。  
ゆっさゆっさと杉の大樹が枝葉が首を振る。  
何へ振っている？ 冬の風へ？ 春まじかの陽にか  
カッサ・カッサと落葉が運ばれていく  
底冷えの寒さを見せた冬將軍も引き上げていく  
凡てが陽をむさばり食べ春を待っている

『朝 (03/06)』

今日の曇りは春まじかの  
曇なのでしょう  
冷たい風の中で

木々は芽を微かに緑たて  
そこはかと  
土は柔らかく  
濡れているようです

夕陽を浴びて  
木立ちも家々の瓦も  
いやもっともっと  
景色が織りなす気配が  
湿って温かく  
生きを育んでいるのです  
そんな陽がたまらないのです

『今日と言う日は (03/16)』

そうですよね  
今日と言う日は  
あなたにとっては  
大事な日なのですね

私にだって  
あるんですよ  
かけがいのない日が

心に残っている日が

心の奥の扉の内へ  
しまった出来事を  
時折だしてね  
陽に当てるのです

そうですよね  
今日と言う日は  
あなたには  
大事な日なのですね

『時はいま朝』 (03/17)

昨日までの  
苦しみが  
ウソのように  
時はいま朝  
.....

何もかも陽を  
浴びて

昨日までが  
ウソのように  
ときはいま朝

時はいま朝  
昨日までの  
苦しみが  
ウソのように  
時はいま朝

『春の陽』(03/18)

巡り巡った  
春の陽が  
ようやく  
訪れました  
寒い大地に

でも……………  
貴方はいない  
柔らかい  
温かい陽を

見ることなく

木々の芽が  
だす緑を  
聞こえますか  
小鳥たちの  
さえずりを

巡り巡って  
春の陽が  
訪れています  
貴方はいない  
大地に

あああ……………  
貴方はいない  
見えますか  
愛する人よ  
春の陽を

『朝』(03/19)

梅が咲いて  
鶯が鳴いて  
菜の花が咲いて  
蝶が飛んで

貴方はいない  
春の陽は  
貴方のいた日と  
同じです

風が舞って  
桜が吹ぶいて  
貴方へと  
花吹雪が流れ行く  
きつと知っているのですね、貴方の居る所を  
蝶も花も小鳥も知っているのですね居る所を  
貴方の居る所を。

『音』(03/21)

車の走っている  
音がします

バイクの走って行く  
音がします  
部屋でテレビが  
鳴っています

何処かで  
歩く靴音が  
響いてきます  
コツコツと  
あれは女の人  
未明の靴音

朝陽がビルの  
窓ガラスに赤く照り  
街は眠りから  
明け出しました  
今日一日の絵画が  
描かれる……

『音』 (03/23)

雨に音が  
吸われています

いいやいいや  
濡れた大地に  
沁み込んでいます

しとしと雨の  
人間の音を  
食べている大地  
どんな味が  
するのだろう

電車の音を  
車の音を  
人間の会話を  
雨に沁み込み  
大地が食べている

『風』 (03/24)

南の風が  
吹いています  
大空の中を  
木々の間を

雲の中を

辛さに耐えた  
心に  
太陽の輝きと  
同じ様に  
吹いています

南の風は  
いろんな物を  
運んできました  
窄みを咲かせる  
術を忍ばせて

『歌』 (03/25)

大空の中で  
白い雲と  
黒い雲が  
戦っています

地上は風が  
吹き荒れて  
木立が  
揺れています

ビル街に  
突風が起こり  
地上の塵を  
吹き上げています

雲は互いに  
ぶつかりあい  
空一面  
凄じい模様です

垂れ下がった  
黒雲は  
飛ぶように  
走っています

『心』 (03/26)

心の奥底まで  
春の陽が差込んで  
温かさに  
身が暖かくなります

冬の閉じた心が  
冷たさから  
ああ、今  
研ぎほこされて

孤独がほのかに  
開放されて  
心に自由が  
沸上がってきます

春の優しい陽  
春の眩しい陽炎  
木漏れ陽の  
まだらな大地

『響』 (03/28)

朝に差込んだ陽は  
お昼には有りません  
灰色の空に囲われて  
樹木も電柱も  
火の見矢倉も  
のんびりとしています

風が微かに  
竹藪をざわつかせ  
雀がときおり数羽  
かたまって飛んで行きます  
車の音がして  
それから、電車の音がして

月曜日と言う日は  
穏やかで眠たいのですかね  
おや！ブルトナーが動き  
道路を激しく掘出しました  
社会の活動って  
人間が生きる為にあるのか

『暖』(03/29)

暖かき陽の光り  
満ちあふれ  
真上の青空

浮かぶ白雲  
山峰より高し  
陽はさらに天井

音ひとつなき  
山間の中に有りて  
地上は眠たし

この一時の  
平穏安住に  
しばし目を閉じる

『お気に入り』(03/31)

春の陽はお気に入り  
陽が野に畑にあり

桜が咲いて  
暖かい大地が好き

春の陽はお気に入り  
温もりの中に  
心が融けて  
希望の輝きが光る

そんな春の陽が  
お気に入り  
今年も寒かった  
心に希望の温さが

ああああああああ  
だから春の陽が  
大好き大好き  
暖かき春の陽よ

End all 1994/03